

平成 17 年度～18 年度 食品中の残留農薬検査結果

1. はじめに

輸入食品の多様化、新しく開発された農薬の増加等を背景に、食品中の残留農薬に関する一層の安全性の確保が求められている。厚生労働省では、平成 17 年 11 月 28 日までに 250 農薬について約 130 の農作物ごとに約 10,000 の基準値を設定してきたが、平成 18 年 5 月 29 日より、すべての農薬と農作物の組合せについて、一定の量を超えて農薬が残留する食品の販売等を原則禁止する、いわゆるポジティブリスト制度を導入し、より一層の安全性の確保を図ったところである。

このような残留農薬の規制の遵守を確認するため、食品中の残留農薬について、地方公共団体による国内流通品の検査、及び検疫所による輸入時の検査※が行われており、検査の結果、残留基準に適合しない場合には回収、廃棄及び輸出国等への積み戻し等の措置が講じられているほか、必要に応じて、農薬の適切な使用等について指導が行われている。

今般、平成 17、18 年度の農産物の残留農薬検査結果として、地方公共団体及び検疫所が実施した検査・調査の結果を取りまとめたので報告する。

また、平成 18 年度より加工食品の残留農薬についても、地方公共団体及び検疫所が実施した検査の結果をとりまとめたので併せて報告する。

※検疫所による検査は、登録検査機関により通関前に実施される命令検査及び自主検査を含む。

2. 集計方法

(1) 平成 17 年度に実施した農産物並びに平成 18 年度に実施した農産物及び加工食品の残留農薬の検査結果として、地方公共団体及び検疫所が実施した検査の結果を集計した。

協力いただいた地方公共団体、検疫所は以下のとおりである。

青森県、岩手県、宮城県、秋田県*、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県*、新潟県*、富山県、石川県*、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県*、愛知県、三重県*、滋賀県⁺、京都府*、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県*、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県*、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県*、札幌市、函館市*、小樽市*、旭川市、仙台市、秋田市、郡山市*、いわき市、宇都宮市*、さいたま市、川崎市、千葉市、横浜市*、相模原市⁺、横須賀市、新潟市、富山市、金沢市、長野市、岐阜市、静岡市、浜松市、名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市、京都市、大阪市、堺市、高槻市*、東大阪市、神戸市*、姫路市、尼崎市*、西宮市、奈良市、和歌山市、岡山市、倉敷市、広島市、呉市*、福山市、下関市*、高松市、松山市、高知市、北九州市、福岡市、長崎市*、佐世保市⁺、熊本市、大分市、宮崎市*、鹿児島市、港区⁺、新宿区*、文京区⁺、江東区、目黒区*、

大田区、世田谷区、渋谷区、杉並区*、豊島区*、北区*、板橋区*、練馬区*、足立区*、葛飾区、江戸川区*

(*：平成 17 年度のみ、+：平成 18 年度のみ)

地方公共団体及び検疫所の検査結果をまとめた上で、検査対象を農産物、加工食品ごとに、国産品、輸入品に区分し、件数（検査件数）、検出数（各農薬が検出された件数）及び検出範囲（各農薬が検出された量の上限と下限）並びに違反数をそれぞれ集計した。違反の判断については、検査を実施した各年度時点の残留基準値に基づき行ったものである。

なお、これらの検査にあたっては、必ずしも厚生労働省が通知等で示している試験方法ではなく、これらの試験法と同等以上の性能を有すると認められる試験法が用いられていることがあること、また、残留農薬基準が設定されていないものについては、統一した試験法が示されていないこと等により、各試験における検出限界等は、各検査機関間で一定していない。また、ppb オーダーの値が検出された例も、検出事例として検出数に含まれている。

3. 集計結果

(1) 農産物

平成 17 年度の検査結果の総括表（農産物）を表 1 に示した。集計の対象となった平成 17 年度の農産物の残留農薬検査結果総数は約 3,474,000 件であり、このうち食品衛生法に基づく残留農薬基準値が設定されているものが約 840,000 件、設定されていないものが約 2,634,000 件である。検査を行った農産物について国産品、輸入品の別に見ると、国産品が約 512,000 件、輸入品が約 2,962,000 件となっている。

また、検査の結果、何らかの農薬が検出されたものは 7,010 件（0.20%）であり、このうち、残留農薬基準が設定されているものが 5,173 件（0.62%）、設定されていないものが 1,837 件（0.07%）である。農薬が検出された事例について、国産品、輸入品の別に見ると、国産品が 1,778 件（0.35%）、輸入品が 5,232 件（0.18%）となっている。

更に、残留農薬基準が設定されているものであって、基準値を超える量の農薬が検出されたものは 59 件（0.0070%）である。これらを国産品、輸入品の別に見ると、国産品が 8 件（0.0032%）、輸入品が 51 件（0.0086%）となっている。

農薬ごとの検査結果については、同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 360 農薬中、検出割合の高い上位 20 農薬を表 2 に示した。また、国産品を対象として同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 289 農薬中、検出割合の高い上位 20 農薬を表 3 に、輸入品を対象に同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 296 農薬中、検出割合の高い上位 20 農薬を表 4 に示した。

平成 18 年度の検査結果の総括表（農産物）を表 5 に示した。集計の対象となった平成 18 年度の農産物の残留農薬検査結果総数は約 3,456,000 件である。検査を行った農産物について国産品、輸入品の別に見ると、国産品が約 632,000 件、輸入品が約 2,824,000 件となっている。平成 18 年 5 月 29 日のポジティブリスト制度の施行により、対象外物質を

除くすべての物質について食品衛生法に基づく残留農薬基準値が設定されている。

また、検査の結果、何らかの農薬が検出されたものは 9,804 件 (0.28%) である。農薬が検出された事例について、国産品、輸入品の別に見ると、国産品が 2,314 件 (0.36%)、輸入品が 7,490 件 (0.27%) となっている。

更に、基準値を超える量の農薬が検出されたものは 417 件 (0.012%) である。これらを国産品、輸入品の別に見ると、国産品が 21 件 (0.003%)、輸入品が 396 件 (0.014%) となっている。平成 17 年度は 59 件 (うち国産品 8 件、輸入品 51 件) であったのに比べ、大幅に件数が増加しているが、ポジティブリスト制度において人の健康を損なうおそれのない量 (一律基準) として 0.01ppm と定めたことにより、一律基準を超過した事例が多かったためである。

農薬ごとの検査結果については、同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 523 農薬中、検出割合の高い上位 20 農薬を表 6 に示した。また、国産品を対象として同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 483 農薬中、検出割合の高い上位 20 農薬を表 7 に、輸入品を対象に同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 463 農薬中、検出割合の高い上位 20 農薬を表 8 に示した。

(2) 加工食品

平成 18 年度に実施された加工食品を対象とした検査結果の総括表を表 9 に示した。集計の対象となった加工食品の残留農薬検査は約 463,000 件であった。検査を行った加工食品について国産品、輸入品の別に見ると、国産品が約 11,000 件、輸入品が約 453,000 件となっている。

また、検査の結果、何らかの農薬が検出されたものは、954 件 (0.21%) であった。農薬が検出された事例について、国産品、輸入品の別に見ると、国産品が 29 件 (0.27%)、輸入品が 925 件 (0.20%) となっている。

更に、基準値を超える量の農薬が検出されたものは 84 件 (0.018%) である。これらを国産品、輸入品の別に見ると、国産品が 0 件、輸入品が 84 件 (0.019%) となっている。ただし、輸入品の検出・違反事例は、主にブランチング処理した冷凍野菜などの簡易な加工品である。

農薬ごとの検査結果については、同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 398 件中上位 20 農薬を表 10 に示した。また、国産品を対象として同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 4 農薬を表 11 に、輸入品を対象に同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 397 件中上位 20 農薬を表 12 に示した。

なお、残留農薬基準に適合しない農産物及び加工食品については、地方公共団体や検疫所において当該農産物等の回収、廃棄等の措置が講じられたほか、必要に応じて農林部局と連携し、生産者に対して農薬の適切な使用についての指導が行われた。

4. 考 察

平成 18 年度にポジティブリスト制度が導入されたことから、農薬の検出件数、基準値

違反件数とも平成 18 年度は増加しているものの、何らかの農薬が検出された件数割合と検出された量、違反件数の割合はいずれも極めて低いことから、我が国で流通している農産物における農薬の残留レベルは低いものと考えられる。なお、農産物等から検出された農薬の中には、鉛のように、農産物等にバックグラウンドとして検出されるものもあり、検出されたものすべてが農薬として用いられた成分に由来するものとは限らない。

さらに、農産物の国産品、輸入品の別にみると、平成 17 年度については表 3・表 4、平成 18 年度については表 7・表 8・表 11・表 12 に示したとおり、検出割合の高い農薬の種類が異なっているが、これは国内と諸外国とで汎用されている農薬の種類が異なることによるものと考えられる。

5. まとめ

本集計結果から、農薬が検出された件数の割合、食品衛生法に基づく残留基準を超える件数の割合はいずれも極めて低く、我が国で流通している農作物及び加工食品における農薬の残留レベルは低いものと考えられる。

表1 平成17年度の検査結果の総括表（農産物）

	国産・輸入	検査数	検出数		基準を超える件数	
			件	%	件	%
食品衛生法に基づく残留基準 が設定されているもの	国産品	248,817	1,413	0.57	8	0.0032
	輸入品	591,010	3,760	0.64	51	0.0086
	合計	839,827	5,173	0.62	59	0.0070
食品衛生法に基づく残留基準 が設定されていないもの	国産品	263,008	365	0.14		
	輸入品	2,371,086	1,472	0.06		
	合計	2,634,094	1,837	0.07		
総合計	国産品	511,825	1,778	0.35		
	輸入品	2,962,096	5,232	0.18		
	合計	3,473,921	7,010	0.20		

表2 同一農薬に関する検査数が100件以上あった360農薬中検出割合の高い上位20農薬（平成17年度・農産物）

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
チアベンダゾール	120	39	32.50	0.0003 - 4.1
臭素	282	56	19.86	0.1 - 100
イマザリル	952	180	18.91	0.0002 - 3.7
イミダクロプリド	264	22	8.33	0.007 - 0.15
オルトフェニルフェノール	174	6	3.45	0.0001 - 1
2, 4-D	391	13	3.32	0.007 - 0.37
クロルピリホス	45,263	1,290	2.85	0.005 - 2.7
クロロタロニル	3,362	95	2.83	0.006 - 2.012
酸化フェンブタズ	226	6	2.65	0.05 - 0.28
ボスカリド	408	10	2.45	0.01 - 0.34
アセタミプリド	2,267	53	2.34	0.01 - 4.7
シペルメトリン	38,361	865	2.25	0.006 - 6.5
イプロジオン	4,262	88	2.06	0.008 - 6.5
アセフェート	3,400	65	1.91	0.01 - 4.89
オメトエート	230	4	1.74	0.01 - 0.032
アゾキシストロビン	13,394	219	1.64	0.01 - 3.73
キャプタン	3,217	49	1.52	0.004 - 5.6
クロルフェナピル	28,938	341	1.18	0.008 - 1.6
メパニピリム	767	8	1.04	0.009 - 2.4
トリフルミゾール	2,069	19	0.92	0.01 - 0.43

表3 国産品を対象として同一農薬に関する検査数が100件以上あった289農薬中、検出割合の高い上位20農薬（平成17年度・農産物）

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
イミダクロプリド	186	12	6.45	0.007 - 0.15
酸化フェンブタスズ	147	6	4.08	0.05 - 0.28
プロシミドン	3,545	144	4.06	0.006 - 4.7
クロルフェナピル	3,331	114	3.42	0.008 - 1.6
クレソキシムメチル	2,711	92	3.39	0.005 - 1.3
クロロタロニル	2,481	79	3.18	0.006 - 2.012
アセタミプリド	1,827	51	2.79	0.01 - 4.7
フェンプロパトリン	3,000	79	2.63	0.007 - 14
アセフェート	2,391	58	2.43	0.01 - 4.89
イプロジオン	3,108	73	2.35	0.01 - 6.5
アゾキシストロビン	1,031	22	2.13	0.01 - 1
シベルメトリン	5,805	109	1.88	0.01 - 3.46
キャプタン	2,495	46	1.84	0.004 - 5.6
ボスカリド	336	6	1.79	0.01 - 0.18
メタミドホス	1,996	33	1.65	0.009 - 1.09
メパニピリム	510	8	1.57	0.009 - 2.4
フルフェノクスロン	934	14	1.50	0.014 - 0.97
テトラコナゾール	1,732	20	1.15	0.008 - 0.46
フェンバレレート	5,609	62	1.11	0.006 - 1.35
メチダチオン	2,263	24	1.06	0.007 - 0.78

表4 輸入品を対象として同一農薬に関する検査数が100件以上あった296農薬中、検出割合の高い上位20農薬（平成17年度・農産物）

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
イマザリル	498	180	36.14	0.0002 - 3.7
チアベンダゾール	115	39	33.91	0.0003 - 4.1
臭素	215	51	23.72	0.5 - 100
2, 4-D	122	13	10.66	0.007 - 0.37
オルトフェニルフェノール	124	6	4.84	0.0001 - 1
クロルピリホス	38,666	1241	3.21	0.005 - 2.7
オメトエート	125	4	3.20	0.01 - 0.032
シペルメトリン	32,556	756	2.32	0.006 - 6.5
DDT	2,384	52	2.18	0.0056 - 0.18
クロロタロニル	881	16	1.82	0.01 - 1.3
アゾキシストロビン	12,363	197	1.59	0.01 - 3.73
トリフルミゾール	544	8	1.47	0.02 - 0.43
イプロジオン	1,154	15	1.30	0.008 - 1.5
カルバリル	1,450	16	1.10	0.011 - 1.4
ピリダベン	13,818	133	0.96	0.01 - 0.51
マラチオン	27,383	250	0.91	0.01 - 0.85
テブコナゾール	13,579	121	0.89	0.03 - 0.92
クロルフェナピル	25,607	227	0.89	0.008 - 0.58
アルドリン及びディルドリン	118	1	0.85	0.008
フェンヘキサミド	120	1	0.83	0.14

表5 平成18年度の検査結果の総括表（農産物）

国産・輸入	検査数	検出数		基準を超える件数	
		件	%	件	%
国産品	633,203	2,314	0.36	21	0.003
輸入品	2,822,516	7,490	0.27	396	0.014
合計	3,455,719	9,804	0.28	417	0.012

表6 同一農薬等に関する検査数が100件以上あった523農薬等中、検出割合の高い上位20農薬（平成18年度・農産物）

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
臭素	181	31	17.13	0.5 - 100
カルベンダジム, チオファネート, チオファネートメチル及びベノミル	556	70	12.59	0.0049 - 18
酸化フェンブタスズ	111	8	7.21	0.05 - 0.19
鉛	107	7	6.54	0.02 - 0.06
イマザリル	4,207	234	5.56	0.0016 - 8
2, 4-D	5,681	312	5.49	0.005 - 0.65
チアベンダゾール	6,005	291	4.85	0.0006 - 3.54
アセタミプリド	6,246	205	3.28	0.0021 - 0.83
シペルメトリン	30,330	936	3.09	0.007 - 3.7
イミダクロプリド	6,347	183	2.89	0.0006 - 1.7
ボスカリド	5,671	162	2.86	0.01 - 1.5
オルトフェニルフェノール	410	11	2.68	0.0006 - 2
ジノテフラン	3,525	92	2.61	0.009 - 0.5
イプロジオン	3,600	92	2.56	0.006 - 3.5
クロルピリホス	39,393	919	2.33	0.001 - 0.93
ピラクロストロビン	201	4	1.99	0.01 - 0.08
クロロタロニル	2,365	46	1.95	0.004 - 2.8
アズキシストロビン	20,040	330	1.65	0.006 - 1.89
ピメトロジン	387	6	1.55	0.008 - 0.04
チオファネート	418	6	1.44	0.02 - 0.4

表7 国産品を対象として同一農薬に関する検査数が100件以上あった483農薬等中、検出割合の高い上位20農薬等（平成18年度・農産物）

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
カルベンダジム, チオファネート, チオファネートメチル及びベノミル	361	47	13.02	0.01 - 18
クレソキシムメチル	2,820	150	5.32	0.005 - 7.23
アセタミプリド	2,228	109	4.89	0.0021 - 0.83
プロシミドン	3,575	157	4.39	0.003 - 1.92
クロルフェナピル	3,407	128	3.49	0.004 - 1.2
イミダクロプリド	974	34	3.49	0.0006 - 1.7
クロチアニジン	676	19	2.81	0.004 - 0.27
イプロジオン	2,603	70	2.69	0.007 - 3.5
アゾキシストロビン	1,509	37	2.45	0.006 - 1.89
クロロタロニル	1,738	42	2.42	0.005 - 2.8
チオファネート	228	5	2.19	0.02 - 0.4
ジノテフラン	189	4	2.12	0.009 - 0.03
トリフルミゾール	1,620	34	2.10	0.0021 - 2.16
メタラキシル及びメフェノキサム	1,909	40	2.10	0.007 - 0.28
テトラコナゾール	1,820	38	2.09	0.003 - 0.23
チアベンダゾール	482	10	2.07	0.005 - 0.26
シペルメトリン	4,975	99	1.99	0.007 - 1
ピメトロジン	265	5	1.89	0.008 - 0.023
フェンプロパトリン	3,192	60	1.88	0.01 - 2.24
フルフェノクスロン	1,238	22	1.78	0.007 - 1.4

表8 輸入品を対象として同一農薬に関する検査数が100件以上あった463農薬等中、検出割合の高い上位20農薬（平成18年度・農産物）

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
臭素	139	23	16.55	0.5 - 11
カルベンダジム, チオファネート, チオファネートメチル及びベノミル	195	23	11.79	0.0049 - 0.74
イマザリル	3,069	234	7.62	0.0016 - 8
2, 4-D	5,243	312	5.95	0.005 - 0.65
チアベンダゾール	5,523	281	5.09	0.0006 - 3.54
オルトフェニルフェノール	233	11	4.72	0.0006 - 2
シペルメトリン	25,355	837	3.30	0.007 - 3.7
ボスカリド	5,217	155	2.97	0.01 - 1.5
イミダクロプリド	5,363	149	2.78	0.003 - 1.58
BHC	4,432	123	2.78	0.002 - 0.29
ジノテフラン	3,336	88	2.64	0.01 - 0.5
クロルピリホス	33,817	867	2.56	0.001 - 0.93
アセタミプリド	4,021	96	2.38	0.007 - 0.17
イプロジオン	997	22	2.21	0.006 - 2.8
アゾキシストロビン	18,531	293	1.58	0.01 - 0.57
クロルフルアズロン	484	7	1.45	0.005 - 0.09
エトフェンプロックス	3,982	55	1.38	0.01 - 0.35
ジコホール	5,899	64	1.08	0.003 - 1.5
テブコナゾール	7,706	76	0.99	0.004 - 0.37
トリフルミゾール	5,574	54	0.97	0.01 - 0.42

表9 平成18年度の検査結果の総括表（加工食品）

国産・輸入	検査数	検出数		基準を超える件数	
		件	%	件	%
国産品	10,634	29	0.27	0	0.00
輸入品	452,696	925	0.20	84	0.03
合計	463,330	954	0.21	84	0.02

表10 同一農薬等に関する検査数が100件以上あった398農薬等中上位20農薬等（平成18年度・加工食品）

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
BHC	847	71	8.38	0.003 - 0.04
シペルメトリン	6,759	258	3.82	0.01 - 2.42
メタミドホス	3,503	90	2.57	0.01 - 2.4
イソプロチオラン	3,214	79	2.46	0.01 - 0.14
アセタミプリド	684	11	1.61	0.005 - 0.05
プロシミドン	3,380	36	1.07	0.01 - 8
γ-BHC	497	5	1.01	0.003 - 0.02
ピリミホスメチル	3,619	34	0.94	0.01 - 2.2
クロルピリホス	5,878	48	0.82	0.005 - 0.23
カドミウム	494	4	0.81	0.1 - 0.1
プロメトリン	1,119	8	0.71	0.007 - 0.48
イミダクロプリド	879	6	0.68	0.01 - 0.03
エトフェンプロックス	606	4	0.66	0.01 - 0.05
ビフェントリン	3,805	23	0.60	0.01 - 0.65
メタラキシル及びメフェノキサム	1,188	7	0.59	0.02 - 0.06
チアベンダゾール	855	5	0.58	0.01 - 1.67
ジコホール	880	5	0.57	0.01 - 0.09
アゾキシストロビン	3,027	17	0.56	0.01 - 0.22
マラチオン	3,575	20	0.56	0.01 - 0.16
チオジカルブ及びメソミル	994	5	0.50	0.01 - 0.04

表 11 国産品を対象として同一農薬に関する検査数が 100 件以上あった 4 農薬等
(平成 18 年度・加工食品)

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
マラチオン	104	13	12.50	0.01 - 0.03
フェニトロチオン	104	0	0.00	
ビフェントリン	101	0	0.00	
クロルピリホス	102	0	0.00	

表 12 輸入品を対象として同一農薬等に関する検査数が 100 件以上あった 397 農薬等中上位 20 農薬等 (平成 18 年度・加工食品)

農薬名	検査数	検出数		検出範囲 (ppm)
		件	%	
BHC	766	71	9.27	0.003 - 0.04
シペルメトリン	6,702	258	3.85	0.01 - 2.42
メタミドホス	3,471	90	2.59	0.01 - 2.4
イソプロチオラン	3,175	79	2.49	0.01 - 0.14
アセタミプリド	637	8	1.26	0.01 - 0.05
γ-BHC	453	5	1.10	0.003 - 0.02
プロシミドン	3,324	36	1.08	0.01 - 8
ピリミホスメチル	3,554	34	0.96	0.01 - 2.2
クロルピリホス	5,776	48	0.83	0.005 - 0.23
カドミウム	494	4	0.81	0.1 - 0.1
プロメトリン	1,083	8	0.74	0.007 - 0.48
イミダクロプリド	843	6	0.71	0.01 - 0.03
ビフェントリン	3,704	23	0.62	0.01 - 0.65
メタラキシル及びメフェノキサム	1,137	7	0.62	0.02 - 0.06
チアベンダゾール	829	5	0.60	0.01 - 1.67
ジコホール	835	5	0.60	0.01 - 0.09
アゾキシストロビン	2,991	17	0.57	0.01 - 0.22
チオジカルブ及びメソミル	961	5	0.52	0.01 - 0.04
DDT	385	2	0.52	0.01 - 0.1
クロルフェナピル	3,273	15	0.46	0.01 - 0.13